

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先 福井県農業試験場 病害虫防除室 Tel 0776-54-5100(代表) 0776-54-9315(直通) FAX 0776-54-6403 E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

平成26年農作物病害虫発生予察予報第6号

8月の気象概況

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並の確立40%です。

[水稻関係]

病害虫名 穂いもち

1 予報内容

発生時期：初発期 早生穂いもち 7月6半旬

中晩生穂いもち 8月2半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より少ない

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 葉いもちの発生がないところでは穂揃い期に1回薬剤を散布する。葉いもちの発生が見られる圃場では出穂直前と穂揃期の2回薬剤を散布する。

(2) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤の連用は避ける。

病害虫名 紋枯病

1 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年よりやや少ない

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 早期に落水すると進展しやすいので、水管理に注意する。

(2) 早生品種や早植えは被害が出やすいので注意する。

病害虫名 ごま葉枯病

1 予報内容

発生時期：発生進展期は8月中旬頃

被害程度：少発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 出穂期以降に根腐れを起こさないように間断通水を行い、早期落水はしない。

(2) 多発地では穂枯れの発生する恐れがあるので、穂ばらみ期～傾穂期に薬剤散布する。

病害虫名 斑点米カメムシ類

病害虫発生予察注意報第2号に準ずる。

病害虫名 ツマグロヨコバイ (第2世代)

- 1 予報内容
発生時期：発生最盛期は平年より早い8月2半旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より少なく、前年より多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 早生刈り取り以降に中晩生で多くなる場合があるので注意する。

病害虫名 セジロウンカ

- 1 予報内容
発生時期：加害盛期は平年よりやや早い8月上旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より少なく、前年より多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 8月上旬に株当たり幼虫が30～40頭以上の場合は薬剤を散布する。
(2) 薬剤は株元によくかかるように散布する。

病害虫名 トビイロウンカ

- 1 予報内容
被害程度：少発
発生量：平年、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 早期発見に努め、発生がみられたらただちに防除する。
(2) 8月初めに短翅成虫数で1株あたり0.1頭以上、8月中旬に成幼虫数で1頭以上の場合には薬剤を散布する。

病害虫名 フタオビコヤガ (イネアオムシ) 第3世代

- 1 予報内容
発生時期：第3世代幼虫加害盛期は平年並よりやや早い8月4半旬
被害程度：少発、局多発
発生量：平年並み、前年より多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 直播田や熟期の遅い品種や作型、過繁茂のイネでは多発しやすいので、注意する。
(2) 斑点米カメムシ類の防除により、本虫の併殺が可能である。

病害虫名 コブノメイガ

- 1 予報内容
発生時期：幼虫加害最盛期は平年並みの8月中旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年、前年より少ない
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 適期コシヒカリ栽培や多肥田に多く発生するので、葉が巻き始める8月上旬頃を目安に薬剤防除する。

病害虫名 コバネイナゴ

1 予報内容

発生時期：成虫加害最盛期は8月中旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) イナゴは広域に移動するので、発生が多い圃場では、広域一斉に防除を行う。

[ダイズ関係]

病害虫名 紫斑病

1 予報内容

被害程度：少発

発生量：平年・前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 開花 20～35 日後に薬剤散布を行う。

(2) チオファネートメチル剤耐性菌が発生しているため、系統の異なる薬剤で防除する。

病害虫名 ウコンノメイガ

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害盛期は平年より早い8月初め

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 若齢幼虫期（8月初め）に薬剤を散布する。

(2) 山間、山沿いの圃場や生育旺盛で葉色の濃い圃場では、多発生する恐れがあるので、注意する。

病害虫名 シロイチモジマダラメイガ

1 予報内容

発生時期：第2世代成虫発生最盛期は平年並みの8月下旬

被害程度：少発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 若莢期から莢伸長期の8月中旬以降に防除する。

(2) 山間部や山沿いでは発生が多くなるので注意する。

(3) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

病害虫名 カメムシ類

1 予報内容

発生時期：圃場侵入最盛期は8月下旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 圃場への侵入が多くなる子実肥大初期（8月下旬）以降に防除を行う。

(2) 8月下旬の圃場侵入期に1圃場あたり100株ずつ3カ所の見とり調査を行い、カメムシ類が平均して100株あたり0.3頭以上いる場合は防除を行う。

(3) ホソヘリカメムシが優占種である場合は、加害・分散能力が高いので注意する。

(4) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

病害虫名 フタスジヒメハムシ

1 予報内容

発生時期：第2世代成虫発生最盛期は8月下旬頃

被害程度：少発、局多発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 第2世代成虫の発生初期である8月中旬頃と発生最盛期である8月下旬頃の2回防除を基幹とする。
- (2) チアメトキサムの種子塗沫処理を行った圃場では、8月下旬の1回防除を行う。
- (3) 発生最盛期（8月下旬頃）において、圃場あたり3カ所以上の払い落とし調査を行い、フタスジヒメハムシ成虫が70頭以上払い落とされた場合は防除を行う。
- (4) 薬剤は莢に充分付着するように散布する。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予報内容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発生量	
スイカ	つる枯病		少発 (局中発)	平年：少 前年：やや多	1)排水をよくし、敷きわらを行い、過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤を連用しない。
	炭疽病		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや少	1)排水をよくし、敷きわらを行い、過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤を連用しない。
	疫病		少発	平年：少 前年：並み	1)排水をよくし、敷きわらを厚くするとともに、窒素肥料を多用しない。
キュウリ スイカ	うどんこ病		少発 (局中発)	平年：並み 前年：少	1)多肥栽培しない。
ネギ	さび病		少発 (局中発)	平年：やや少 前年：多	1)肥料不足や窒素過多にならないようにする。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
全般	アブラムシ類		少発 (局中発)	平年: やや多 前年: 並み	1) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。
	ハダニ類		少発 (局多発)	平年: 多 前年: やや多	1) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。
	ハスモンヨトウ	加害初期: 8月上旬	少発 (局中発)	平年: 並み 前年: 並み	
	ネキリムシ類	加害初期: 8月上旬	少発 (局中発)	平年: 多 前年: 並み	
ナス	ニジュウヤホシ シトウムシ	成虫発生最 盛期: 8月中旬	少発 (局中発)	平年: やや多 前年: 多	
ウリ類	ウリハムシ	成虫発生最 盛期: 8月中旬	少発	平年: 少 前年: 並み	
アブラナ 科野菜	キスジノ ミハムシ	成虫発生盛 期: 9月上旬	少発	平年: 並み 前年: 並み	
	ハイマダラノメイ ガ	加害初期: 8月中旬	少発 (局中発)	平年: やや多 前年: 並み	
ナス ピーマン キュウリ ホウレン ソウ	シメキイロアザ ミマ		小発 (局多発)	平年: 多 前年: 多	1) 本虫は寄主範囲が広いので注意する。
トマト ナス ピーマン	オオタバ コガ		少発 (局中発)	平年: 少 前年: 少	1) 果実に食入するため、若齢期に防除を徹底する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナシ	黒星病		少発	平年：少 前年：並み	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が込み合っている場合は剪定して風通しを良くする。
	黒斑病		少発	平年：並み 前年：多	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が込み合っている場合は剪定して風通しを良くする。
	ハダニ類		少発 (局多発)	平年：多 前年：多	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。

[花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キク	アブラムシ類		少発	平年：並み 前年：多	1) 同一系統薬剤の連用を避ける。
	オオタバコガ	幼虫加害盛期： 7月下旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：多	1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 同一系統薬剤の散布回数を極力減らし、連用を避ける。
	ハダニ類	加害盛期： 7月中旬	少発	平年：やや多 前年：並み	1) 同一系統薬剤の散布回数を極力減らし、連用を避ける。